

クラス	TU301	担当教員	赤石 憲昭
テーマ	「人間とは何か」について多面的に考える		
著書・論文 研究課題等	「ホネットの批判的社会理論の批判性：現代における労働と承認の問題圏」 『情況』（特集：ドイツ現代思想の行方）11・12月号、情況出版、2007年 『希望はテロ』の背後にあるもの：秋葉原事件の承認論的考察」 『リブレーザ』第7号、社会評論社、2008年 「ヘーゲルのジェンダー論をどう読むか？：ヘーゲルの男女観に関する一考察」 木本喜美子・貴堂嘉之編『ジェンダーと社会：男性史・軍隊・セクシュアリティ』旬報社、2010年 「丸山眞男の民主主義論の再検討：日本の民主主義の危機的状況の理解と打開のために」 平子友長ほか編『危機に対峙する思考』梓出版、2016年 研究課題：「人間のあるべき姿」の探求（ヘーゲル哲学、批判的社会理論、ジェンダー論）		
ゼミナール概要			
キーワード：人間、承認、善く生きる、自由、民主主義			
私の問題関心 私の専門は、哲学と現代社会論で、「人間が『善く生きる』とはどういうことか」、そして、「現実の社会でそれを実現するにはどうしたらよいのか」ということが根本的な問題関心です。それを具体的に、哲学については、哲学概論・哲学（現代人間論）・倫理学概論の授業で、現代社会論については、現代基礎教養Ⅰ・ジェンダー論の授業で扱っていますので、これらのシラバスの内容を見てください。その中でもとくに、哲学（現代人間論）で主題として扱っている「承認」という概念に注目しています。「承認」（認めること／認められること）は、子どもはもちろん大人も含めて、人間が人間らしく生きていく上で欠かせないものです。この「承認」を一つの主要な切り口として、人間らしい発達のあり方、および、人間らしい生き方について、人間それ自体だけでなく、社会や国家との関係をも視野に入れながら、総合的な探求を試みるのが私の立場です。			
あなたの研究とどう関わるか 「承認」の問題や哲学の議論は、一般教養としてだけではなく、人間について考える上では切り離すことができない問題であり、みなさんがどのような研究テーマを扱う場合にも必ず顔を出してくるものです。また、現在、社会が抱えている諸問題を考える上では、様々な場面で価値観の根本的な捉え直しや多面的な視野が必要であり、「人間とは何か」を追求する哲学的な物の見方・考え方は、ますます重要となっています。このような哲学的観点や社会的観点も取り入れながら、自分自身の研究を深めてもらいます。			
ゼミのテーマ 各自が自由にテーマを選び、それぞれが勉強を進めていくこととなりますので、予め決められた内容というものはありません。大きく括れば「人間とは何かについて多面的に考える」ということとなります。過去および現在のゼミ生の研究テーマは、「子どもの自己肯定感を高める保育」、「子どもの幸福」、「教師の保護者対応」、「子どもへの言葉がけ」、「自己愛」、「生きる意味」、「共依存」、「学校教育におけるジェンダー」、「子どもの貧困」、「現代の若者の承認不安」、「アダルトチルドレン」、「障害者権利条約」、「いじめ問題」などです。			
方法・授業計画 共通文献あるいは各自の関心のある文献を読み、まとめ、発表をし、それについて、質疑応答をし、議論をする、というのが基本的な演習の進め方です。3年では、まずは共通文献の読解からはじめて、とくにすべての基礎となる「本の読み方・まとめ方」と、人間について考える上で重要な文献の講読を通じて大学生としての一般教養も身につけてもらいます。今のところ考えている共通文献は、マーク・トウェイン『人間とは何か』（岩波文庫、1973年）、岡本裕一郎『いま世界の哲学者が考えていること』（ダイヤモンド社、2016年）、小室直樹『日本人のための憲法原論』（集英社インターナショナル、2006年）、リチャード・ドーキンス『利己的な遺伝子』（紀伊國屋書店、2006年）です。人文科学、社会科学、自然科学の分野の書物をバランス良く読みましょう。その後は、各自が興味を持った文献について、それぞれ自分で内容をまとめ、発表してもらいます。4年でも、前期は、各自の卒業論文に関わる文献の発表から始めますが、卒業論文作成を意識したより実践的な指導を行います。それ以外の活動については適宜、提案してください。上記の内容や進め方等についても、参加者の意向をふまえて最終的に決定します。			
担当教員からのメッセージ			
大学3・4年の2年間は、勉強の基本的技能や、幅広い教養を身につけることができる、人生最後の機会になるかもしれません。サークル、バイト、就職活動等、いろいろやらなければいけないこともあるでしょうが、勉強もぜひしっかりやって頂きたいと思いますし、私もそのつもりで指導します。みなさんが、「大学で勉強した！」という充実感をもって卒業できるよう、こちらも学問の特に面白いところをいろいろ用意しておきます。			